

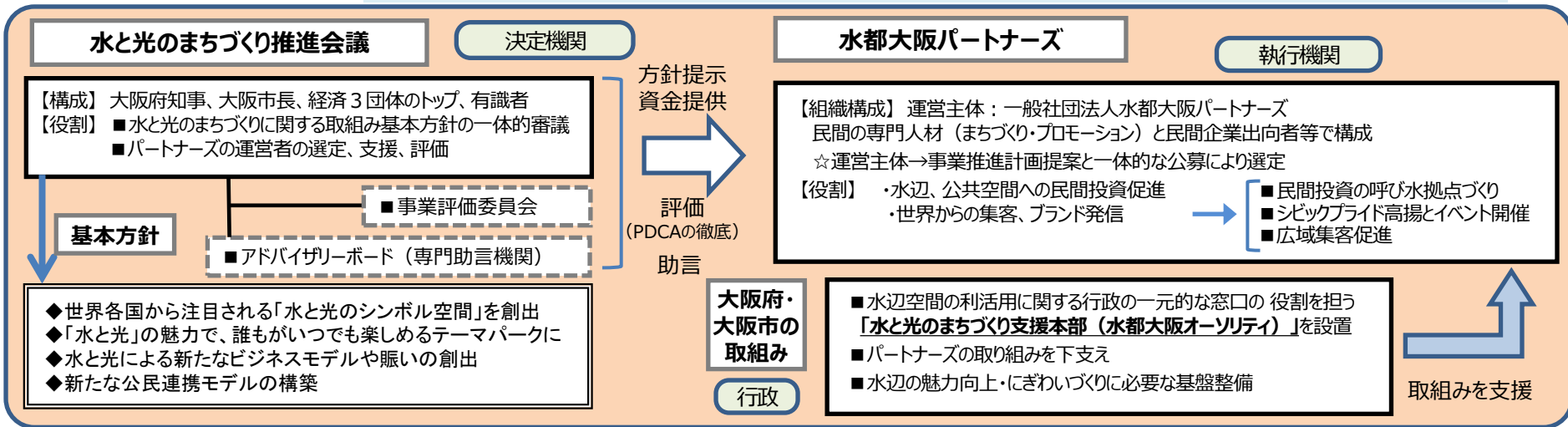
大阪都市魅力創造戦略の進捗状況について

1) 3つの重点取組みの進捗状況と評価について

水と光のまちづくり

1 組織体制・仕組み

水と光の魅力で世界の都市間競争に打ち勝つ「水と光の首都大阪」の実現に向け、オール大阪で取り組む基本方針のもと、民主体の「水都大阪パートナーズ」の活動を行政がサポートし、魅力・にぎわいづくりを推進



2 平成25年度の水都大阪パートナーズの取組み実績

取組み① 世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」の創出にかかる取組み	中之島公園でトライアル事業開始	水都大阪フェス10万7千人の集客、みおつくしプロムナードを活用したグリーンマルシェの実施
	中之島GATEでトライアル事業開始	左岸の未利用地を初めて利用 (17日間) し、5万1千人の集客
	水都大阪フェスの開催等	水の回廊一周可能な水辺バルを同時開催、マスコミ取り上げ (紙媒体37件、TV等11件)
取組み② 国内外から観光客が訪れる「水と光のテーマパーク」の実現にかかる取組み	水辺拠点の連携支援の開始	拠点エリアネットワーク会議の設立、拠点づくりの開始
	観光局や舟運事業者等と観光商品化	舟運事業者等との商品企画づくり、観光局等と連携した水都観光商品のプロモーション
	ウェブ、サポーターネットワークの立ち上げ	サポーター数103名、水都大阪HP約25万セッション、Facebook購読2,604名

3 評価結果及び今後の課題 平成26年5月13日 事業評価委員会での審議結果

◆水都大阪パートナーズに対する評価結果

- 事業立ち上げ初年度の取組みとしては、「概ね予定どおりに進んでいる」との評価
 - 「水都フェス」など既に実績ある事業の延長線上ではなく、新たな取組みに期待
 - 活動が民間ビジネスのきっかけづくりや、民間資金の呼び込みにつながることを期待

◆今後の課題

- ・突き抜け感のある事業で水都の魅力をしっかりとアピールする。
- ・水都の認知度を高め、水都に因んだ商品造成や民間資金呼び込みに向けた取組みを強化する。

大阪・光の饗宴2013実施結果

実施期間 : 平成25年12月1日～平成26年1月19日
経済波及効果 : 約284億円
来年の参加意向: 「来年も参加したい」約90%

来場者数
約517万人

OSAKA光のルネサンス2013 約201万人
御堂筋イルミネーション2013 約95万人
エリアプログラム 約221万人

コアプログラム



OSAKA光のルネサンス2013

期間:平成25年12月15日～12月25日17:00～22:00
場所:大阪市役所周辺から中之島公園剣先



御堂筋イルミネーション2013

期間:平成25年12月1日～平成26年1月19日 17:00頃～23:00
場所:大阪市役所正面及び
淀屋橋交差点(土佐堀通)～新橋交差点(長堀通) 約1.9km

エリアプログラム

大阪市内各所で民間が実施する光のイベント(8エリア10プログラム)と連携し合同プロモーションを行った。

- スノーマンライティング
- 街中がスノーマン/大阪ステーションシティ・時空の広場会場「トワイライトファンラジー」
- 新梅田シティ・世界最大級のクリスマスツリー
- 中之島ウォーターファンタジア
- 光の水都ルネサンスクルーズ
- 天満・桜ノ宮リバーサイドクリスマスツリー
- なんば光旅「光の滝」
- とんぼりリバーウォーク「夢をつなぐ光の川」
- あべてん「光の音色」シンボルツリー
- 大阪城3Dプロジェクトマッピング

まちあるきプログラム

大阪市内中心部のホテル・百貨店・商店街などが参加した回遊性向上プログラム。

○参加数:39施設・団体/481店舗

OSAKA光のルネサンス2013の概要

水辺のオペラ「光の歌劇」



(c)Festival of the Light in Osaka Executive Committee

大阪市中央公会堂正面に繰り広げる壮大な3Dマッピング

ローズライトファンタジア



(c)Festival of the Light in Osaka Executive Committee

中之島公園をバラや自然をモチーフにした光で彩り

御堂筋イルミネーション2013の概要

大阪文化・光絵巻



大阪市役所正面に、文楽、漫才など大阪の文化をモチーフにした影絵を展開

420面ライトアップ&スターダスト



御堂筋のイチヨウ並木の中央2列にはライトアップ、歩道には星が降り注ぐようなスターダスト(星屑)が登場

大阪アーツカウンシル

1 組織体制・仕組み

府市の附属機関である「大阪府市文化振興会議」の常設部会(名称:「アーツカウンシル部会」)として設置
【機能】行政と一定の距離を置き、芸術文化の専門家等による事業の評価・審査、企画、調査を実施

【構成】部会長(通称「統括責任者」)1名と専門委員4名で構成
より専門性の高い分野の補助金審査等を行うため、業務内容を限定した委員数名を別途委嘱
また、事業の実地調査等を補助的に行うアーツマネージャー数名を配置

2 平成25年度の実績

- ・平成25年6月から、部会長(統括責任者)及び委員を選任し体制整備、7月から本格的な活動を開始。
- ・初年度の取り組みとして、府市文化担当課の所管事業(府18事業、市28事業)についての可能な限りの現地調査と関係者からのヒアリング等を行い、評価作業を実施。
(※事業の現地調査延べ約100件、シンポジウム等への参加等21件、補助事業の採択審査7回)
- ・事業評価については、11月に中間とりまとめ、3月に事業評価の全体のとりまとめを実施し、府市文化振興会議に報告するとともに、結果を公表。
- ・大阪アーツカウンシルからの意見提言等を受け、平成26年度補助事業の公募に際し、事例報告と申請手順の説明会を開催するなど、可能なものから具体化。

3 今後の課題等

大阪アーツカウンシルからの提言や意見、新たな企画案等について、具体的な事業に反映させるとともに、文化施策全体を大阪にふさわしい方向に展開させる予定。

これらを通じて、アーツカウンシルの仕組みを軸にした文化施策のPDCAサイクルを確立させる。

※別紙A参照

大阪観光局

平成25年度の主な取組実績

※別紙B参照

◇トラベルミッションの推進

- ・中国台湾香港地区・・・プロモチームの派遣4回 観光展出演4回 ファムトリップ10回
- ・韓国・・・企業タイアッププロモ5回 観光展出演(プサン)1回 ファムトリップ12回
- ・東南アジア・・・プロモ・商談会10回 観光展出演(インドネシア、タイ2、マレーシア)4回 ファムトリップ11回
- ・欧米豪州・・・プロモチームの派遣4回 観光展出演(イギリス、スペイン、ドイツ)3回 ファムトリップ10回

◇大阪の認知度を高めるイベントづくり

- ・大阪城3Dマッピング・スーパーイルミネーションショーの開催(入場者59万人)
- ・大阪国際音楽フェス(ジャズコンペティション)開催及びジャズデイの誘致

◇大阪の認知度アップを狙ったPR

- ・CNNでの大阪CM放映・・・25年11月から12月 120回(1日2回×60日)アジアパシフィック地区放映
- ・「AsianGateWayOsaka」キャッチコピーの統一及びロゴの統一

◇ムスリム対応・・・ムスリムフレンドリーマップを2万部作成

◇Wi-Fi環境の整備・・・無料使用できるOsakaFreeWi-Fiの推進(54施設、209AP機)

◇周遊パスのデジタル化

◇案内所の運営・・・約 46万人の利用

大阪観光局

平成25年度の主な取組実績

※別紙B参照

◇観光局長トッププロモーション

- ・10回 覚書締結都市等 4市(プサン、長江デルタ地区(6万人プロジェクト)、シアトル、リヨン)

◇クルーズ誘致

- ・クルーズエキスポ(シンガポール、マイアミ)に出席セールス
クルーズ会社に直接営業

◇国内プロモーションの推進

- ・西日本を中心として地道なプロモーション活動
九州地区を中心に現地説明会の開催、マスコミ向け説明会開催
- ・旅行エージェントへのセールス活動
全国の旅行代理店(32都市、158社)へのセールス
- ・観光PRイベント出展(12イベント14都市)
- ・天神祭等伝統行事の活用(陸渡御・船渡御の観覧席の設置、奉拝船の運航)

◇データに基づくプロモーションの展開・・・「関空調査の実施」 延べ8215人調査

◇MICEの戦略的誘致

- ・「大阪におけるMICEの戦略的誘致に向けて」を策定し、中長期の目標を掲げ、目標達成に向けた取り組みを実施。
- ・MICEアライアンス、MICEショーケースの開催
アライアンス6回開催 ショーケース(12月開催408人参加)

大阪観光局の2013年度の事業進捗について

事業評価指標

★主指標 観光局の全事業の結果を反映する明確な指標。評価にあたっての主要指標。

指標名	目標値	実績	備考
来阪外国人旅行者数	260万人	262万人	●前年比 29.4%増 ●訪日全体の伸び率より5.4ポイント上回っている 日本政府観光局「訪日外客数推計」観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに推計

★副指標 観光局の事業活動内容を反映する指標。評価にあたっての副次的な指標。

指標名	目標値	実績	備考
来阪外国人延べ宿泊者数	350万人	431万人	●前年比 40.8%増 ●全国2位 伸び率順位12位 観光庁「宿泊旅行統計調査」暫定値
延べ宿泊者数	2,400万人	2,409万人	●前年比 3.2%増 ●全国3位 伸び率順位20位 観光庁「宿泊旅行統計調査」暫定値
国際会議開催件数	295件 19件	318件 30件	●前年比 13.1%増 JNTO「国際会議統計」のために大阪観光局が集計し、JNTOに報告した数値 下段は「中・大型*」会議の開催件数で全体件数の内数
MICE 外国人参加者数	21,500人	23,785人	●前年比 19.7%増 C：国際会議 JNTO「国際会議統計」のために大阪観光局が集計し、JNTOに報告した数値 I：インセンティブ ツアー 大阪観光局による集計
自主財源の確保	3,000万円	3,130万円	

★活動目標 観光局の事業推進の目標である活動目標。

*「中・大型」会議：外国人参加者数50人以上および総参加者数300人以上

指標名	目標値	実績	備考
来阪外国人旅行者による観光収入	1,796億円	1,851億円	※大阪観光局による集計（大阪での消費額×来阪外国人旅行者数）
来阪外国人旅行者の満足度（満足割合）	96.7%	95.6%	※大阪観光局による集計
MICE重要ターゲット（医薬・工学）開催件数	70件	81件	※大阪観光局による集計
MICE商品開発件数	20件	20件	※大阪観光局による集計